

温室効果ガス削減計画

1 事業の概要

(1) 事業所の名称

マイクロンメモリジャパン株式会社 Fab15

(2) 事業所の所在地

広島県東広島市吉川工業団地7番10号

(3) 業種

集積回路製造業(2814)

(4) 事業所位置図

別紙のとおり

2 計画の期間

本計画の期間は、平成15（2003）年度を基準年度とし、令和1（2019）年度～令和5（2023）年度の5年間とする。

3 計画の基本的な方向

Micronでは、メモリソリューションとストレージソリューションのグローバルリーダーになるというミッションを遂行する際に行う活動に関して、高い水準の環境と安全性を追求しています。当社は、汚染の低減及び防止を含む環境の保護、チームメンバー、ベンダー、訪問者の安全、健康の保護、コンプライアンス義務、リスクや機会に対する配慮、利害関係者のニーズと期待事項を考慮した戦略目標を積極的に設定することでこれを行っています。当社のコミットメントで必要不可欠な、EHSパフォーマンスを向上させるための環境・衛生・安全（EHS）管理システムの継続的改善に集中している点です。

Micronでは、法律やその他のコンプライアンス義務の順守は最低限のEHS期待事項です。環境や人々に対するコミットメントを示すために、必要に応じて、法律順守以上の取り組みを行います。

当社はライフサイクルの視点から活動や製品にアプローチしており、当社の製造環境で使用したり、製品に取り入れたりする材料を確認し、それらの用途や寿命を考慮することで運営への影響を最小限に抑えるよう努めています。こうしたサプライチェーンへの配慮により、計画と設計の初期段階で環境および安全への影響を軽減する機会を評価できます。

当社はすべてのEHSの負傷や事故を防止できると信じており、主要利害関係者と協力してリスク評価や効果的な管理を行ってこの目標を実現させます。Micronのマネージャー、チームメンバー、請負業者には、世界中で行っている業務のすべてにおいて本ポリシーを支持し、Micronの事業活動・倫理指針に記載されている要件を含め、関連するMicron_EHSの手順および要件を順守することを期待しています。当社は、当社の運営方法をこれらの基準と一致させ、環境にやさしく、怪我のない職場を維持する責任をマネージャーやスーパーバイザーに持たせることでこの期待の後押しをしています。

4 温室効果ガスの排出状況（二酸化炭素換算）

【エネルギー起源二酸化炭素】

温室効果ガスの種類	温室効果ガス排出量（t-CO ₂ ）	
	基準年度	直近年度
	平成15（2003）年度	令和3（2021）年度
二酸化炭素	224,000	774,325

【非エネルギー起源二酸化炭素】

温室効果ガスの種類	温室効果ガス排出量（t-CO ₂ ）	
	基準年度	直近年度
	平成（ ）年度	令和（ ）年度
二酸化炭素		

【その他温室効果ガス】

温室効果ガスの種類	温室効果ガス排出量（t-CO ₂ ）	
	基準年度	直近年度
	平成15（2003）年度	令和3（2021）年度
メタン		
一酸化二窒素		
その他 温室効果 ガス （ HFC PFC SF6 NF3 ）	221,000	569,000

5 温室効果ガスの総排出量に関する数量的な目標

《排出量を削減目標とする場合》

単位：排出量 (t-CO₂)，削減率 (%)

温室効果ガスの種類	基準年度 (平成 () 年度)	削減目標		目標年度 (令和 () 年度)
	排出量 (a)	削減率 (b)	削減量 (c)	排出見込量 (d)
エネルギー起源CO2				0
非エネルギー起源CO2				0
メタン				0
一酸化二窒素				0
その他 温室効果ガス				0
温室効果ガス 実排出量総計				0
温室効果ガス みなし排出量		-		0
目標設定の考え方				

※ 削減率(b) = (c)/(a) × 100 削減量(c) = (a) - (d)

《原単位を削減目標とする場合》

原単位算定に用いた指標：

ウェハー投入枚数(200mmウェハー換算)

単位：排出量(t-CO₂)，原単位置量(kg等)，削減率 (%)

温室効果ガスの種類	基準年度 (平成15 (2003) 年度)			原単位 削減目標	目標年度 (令和5 (2023) 年度)		
	排出量 (a)	原単位 数値 (b)	原単位 (c)	削減率 (d)	排出 見込量 (e)	原単位 見込数値 (f)	原単位 見込 (g)
エネルギー起源CO2	224,000	810,000	0.28	39.3	1,292,000	7,600,000	0.17
非エネルギー起源CO2							
メタン							
一酸化二窒素							
その他 温室効果ガス	221,000	810,000	0.27	44.4	1,140,000	7,600,000	0.15
総排出量	445,000	810,000	0.55	41.8	2,432,000	7,600,000	0.32
エネルギー消費原単位 (原油換算 k l)	-	-	0.12	19.8	-	-	0.10
目標設定の考え方	エネルギー消費原単位(原油換算k1)で2013年度実績対比20%削減した。減省エネ法の届出では原単位をTr数としているが、本報告ではより生産に結びついた投入枚数としている。						

※ 削減率(d) = {(c) - (g)} / (c) × 100 原単位(c) = (a) / (b) 原単位見込(g) = (e) / (f)

6 温室効果ガスの排出の抑制に係る措置項目及び目標並びに具体的な取組等

○ 温室効果ガスの排出抑制に向けた取組

	項 目	数値目標	具体的な取組
1	エネルギー起源CO2の削減	179k1/年度	工業用水有用利用によるポンプ及び冷凍機電力削減
2	エネルギー起源CO2の削減	232k1/年度	生産真空ポンプシステム最適化による稼働台数削減
3			
4			

※ 原単位で作成する場合は、数値目標欄の記載例中、「使用量」を「原単位」に適宜読み替えること

○ 温室効果ガスみなし排出量の抑制に関する取組（環境価値の活用等）

	種 類	合 計 量
1		
2		
3		

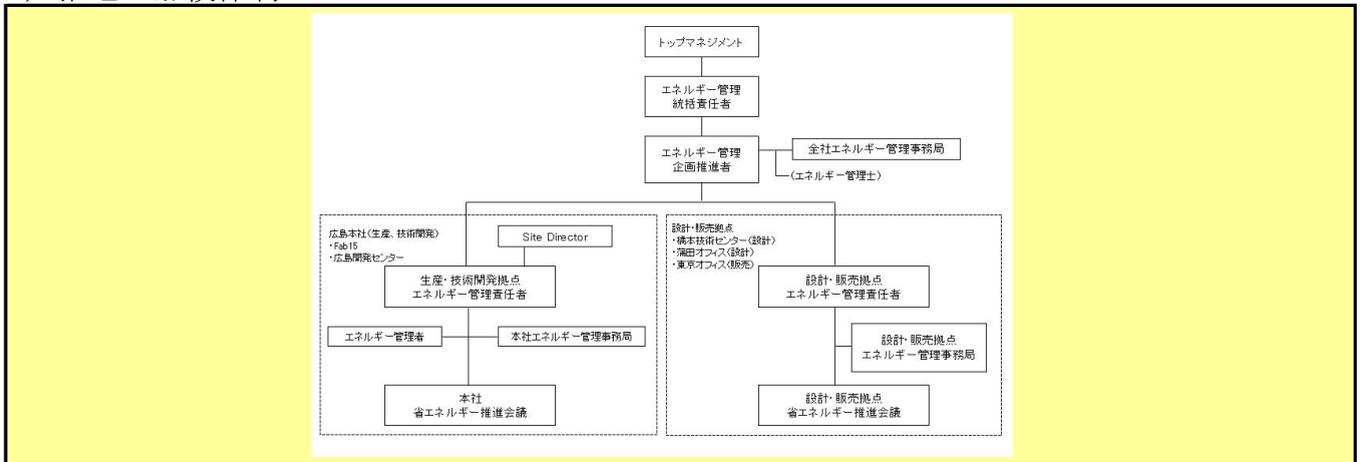
○ その他の取組

	項 目	数値目標	具体的な取組
1			
2			
3			

※ 環境に配慮した実践的な取組などをされていれば記入してください。

7 温室効果ガス削減計画の推進並びに実施状況の点検及び評価に関する方法等

(1) 推進・点検体制



(2) 実施状況の点検・評価

当社の環境マネジメントシステムに基づいて、環境目標の項目として推進しており、実績集計は月単位で行い、達成状況を社内報告している。また、年度のまとめはマネジメントレビューにて実施している。

(3) 計画書等の公表

外部からの開示要求に対して公表する。